

宮島層

上塩原の箒川のほとりに沿って岩壁を形成している成層は、宮島層として知られている。塩原の多くの地質学的特徴と同じく、これらの岩壁は約 40 万年前に始まった火山活動によるものである。ある時、地下のマグマ溜りが空になり、地表に対する圧力が弱まり、地面に大きな窪みができる。そして箒川の水がその窪みを満たし、カルデラ湖ができる。宮島層の岩壁は、かつてその湖の湖底であった。しかし、湖底はさらなる火山活動によって周囲の土地の上に押し上げられ、その後、箒川によって浸食され、岩壁ができる。

岩壁にはベージュ色と茶色の層が交互に見られる。より明るい色の層は、主に珪藻と呼ばれる藻の化石でできている。これらの珪藻は、一年の暖かい月の間に増殖し、その後、冬が近づくにつれて温度が下がると枯れ、やがて湖の底に落ちていった。雪解けと初夏の大雨により、湖に泥、土、砂が流れ込み、より暗い色の層が形成された。ベージュ色の一層と茶色の一層は、合わせて 1 年が経過したことを示す。